委員会報告
COMMITTEE REPORT

土木学会論文集 No. 518／IV-28, 13-16, 1995.7

委員会報告：第17回土木計画学研究発表会報告

REPORT OF THE 17th CONFERENCE ON INFRASTRUCTURE PLANNING

稲村　肇
Hajime INAMURA

正会員　工博　東北大学教授　大学院情報科学研究所（〒980-77　仙台市青葉区荒巻字青葉）

1．はじめに

平成7年1月9日～11日の3日間，栃木県総合文化センター（宇都宮市）において第17回土木計画学研究発表会（主催：土木学会，担当：土木計画学研究委員会）が開催されました．参加者は約800名と前回並にとどまりましたが，講演論文数は288編と前回を33編も上回る盛会となりました．

ご存知のように，土木計画学研究は今回大幅な改革を行い，審査方式が事前審査方式から事後審査方式に変わったことから，従来にも増して活発な討論が行われたのではないでしょうか．しかし，参加者，主催者ともに初めてのことが多く，事前のPRが不足していたこともあり，今後の課題も多々あったかと思います．そこで，土木計画学研究発表会を担当している土木計画学研究編集小委員会の委員長としては改革の主旨をより多くの皆様に理解していただき，土木計画学研究発表会をより充実・活発化させるため，以下ではまず改革の概要について述べ，発表会の状況と反省点などについてご報告することといたします．

2．改革の概要

(1) 改革の目的

最も大きな変更点は，従来の審査付部門・自由投稿部門という区別をなくして全て一般部門の講演とし，審査付き論文集への登載を希望する場合は発表会後に提出する審査用論文による事後審査方式に変更したことです．また，従来は審査付部門への投稿が連名も含めて1人1編に制限されておりましたが，今回からはこのような制限もなくなりました．

このような改革の目的は，論文作成に発表会での討議を活用できるというこれまでの自由投稿部門のメリットを保持しつつ，審査付論文に加えて自由投稿論文に埋もれた優れた論文を審査付論文として評価できる機会を設け，さらに優れた論文であれば何編でも投稿可能とすることで，土木計画学研究発表会ならびに「土木計画学研究・論文集」をさらに充実・活発化することにあります．

(2) スケジュール

事後審査方式をとることにより，審査付き論文の投稿〆切は3月上旬となり，研究や調査の区切りである年度末を控え，最新の研究成果をいち早く投稿できるようになったと考えています．これに伴い，従来「土木計画学研究・講演集」と同時に発行されていた「土木計画学研究・論文集」の発行時期は翌年度の夏にずれることになり，現在査読が行われているところです．なお，発表会及び論文集発行のスケジュールは最新の研究成果の速報性，入試・就職等の大学行事への支障，議会・予算等の官庁行事への支障，年度末予算等の実務への支障といった種々の制約を考慮して設定したものですが，発表会は12月中に開催した欲しいという要望も多く寄せられました．次回は12月6日～8日の開催となるため，講演用論文の投稿〆切も今回より1カ月早まり8月21日になりますが，審査用論文の投稿〆切及び論文集の発行はこのような制約を考慮して今回と同様になります．

(3) 発表会

発表会の講演用論文は1編4頁以内となり，従来の審査付き8頁，自由投稿6頁より紙面が少なくなりました．その代わり，審査用論文最大12頁まで可能としております．また，講演用論文提出から発表会までは3カ月以上あり，発表会においてその間の研究成果を取り込んだ場合，審査用論文と講演とのギャップが大きくなることもあり得えます．そこで，講演会場で講演論文とは別途に補足資料等を配布してもよいことになっています．討議を含めた発表時間は30分程度（今回はプログラムの関係上25分となりました）確保することとしました．発表時間は従来の審査付き40分より短くなるものの，発表会での討議がすぐに論文に反映されることから，より活発な

討議が期待され，短い発表時間ながら討議の時間は充分とるようにいたしました．

スペシャル・セッションは従来2編以上の自由投稿論文に相当する論文の投稿が必要とされていましたが，今回からは1つのセッションで8頁以内の1つの論文にまとめていただくことになりました．これは，一般部門との差別化を図るとともに，スペシャル・セッションによりまとまりを持った企画をお頼いしたいということです．また，スペシャル・セッションに投稿した論文も審査付きへの投稿が可能であり，より積極的な活動を期待するものです．

開催校および地元自治体等の負担をなくすため，今回から発表会の参加費（一般5,000円/学生2,000円）を徴収することとなりました．その代わり，「土木計画学研究・講演集」は無料配布としました．これにより，学生会員など従来講演集なしで参加していた方も全員が講演集を手にして発表会に臨むことができ，質疑がより活発になることを期待したものです．

（4） 論 文 集

発表会後に提出される審査用論文を審査して論文集が発行されます．審査は審査分野の編集小委員1名と外部査読者2名の合計3名で行い，審査の最終決定は編集小委員全体で行います．

審査基準は概ね従来と同様ですが，多少の欠点があっても萌芽的研究，発展が期待される論文は積極的に採択する方針で審査することになりました．例えば，下記のような研究は論文の内容が良ければ採用します．

a）検証は十分とはいえないが，理論や定式化が学問の発展において有用である．

b）文献調査は十分とはいえないが，研究の位置付けは明確である．

c）比較研究は十分とはいえないが，適用例としては意義がある．

d）論文の構成や表現は適切とはいえないが，内容は評価できる．

e）論理性は十分ではないが，成果に実務上の価値がある．

f）有意義な論説，提言及び事例紹介的研究である．

また，今回から採用されなかった論文に対しては，その理由を付して通知することにしました．これは，その理由を参考に研究をさらに進めて次の機会に投稿されることを期待するものです．

論文書式は講演用論文そのままでも投稿可能なように，和文及び英文のアブストラクトを最後に付す形式としました．また，発表会における討議等をもとに内容を充実させた場合には，それに伴って題目や著者を変更しても構いません．ただし，発表内容と著しく異なる論文については審査をお断りすることがあります．

今回査読結果の通知が遅れ修正期間が短くなってしまったことを心からおわび致します．

3．発表会の状況

（1） 一般部門

一般部門への投稿は281編で，前回のスペシャル・セッションを含めた255編を大きく上回りました．論文の分野は審査分野に準じてA～Gの7分野，84セッションに分けられました．ただし，1つの論文が複数の分野にまたがることも多く，また，プログラムの都合上必ずしも希望の分野をまとめて1つのセッションにすることはできません．結果的にプログラムされたセッションの名称とその論文数を列挙すれば，以下のとおりです．（セッションⅠ，Ⅱのように分かれているものは1つにまとめました．かっこ内が論文数）

A：土木計画全般（39）
　計画基礎論（3）
　計画手法論（4）
　意識調査分析（7）
　イメージ分析（3）
　整備効果計測法（3）
　公共事業評価法（3）
　事後評価（3）
　計画情報（6）
　支援システム（3）
　地域計画史（4）

B：都市地域計画（40）
　地域計画（4）
　地域づくり（4）
　地方都市（6）
　過疎地域（3）
　立地（3）
　産業立地（3）
　人口分布（3）
　地価分析（3）
　土地利用（8）
　土地利用・交通モデル（3）

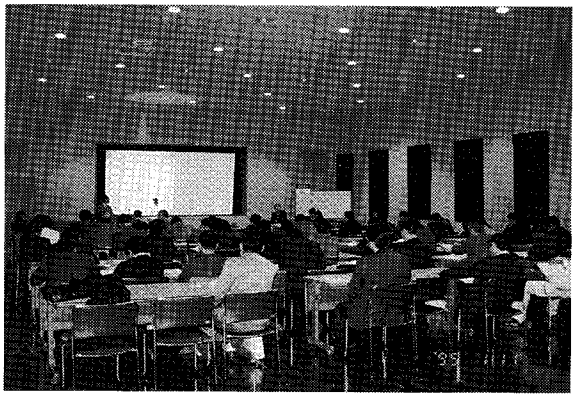
C：資源・環境・防災計画（30）
　環境計画（8）
　防災計画（7）
　防災道路網計画（4）
　河川計画（7）
　エネルギー計画（4）

D：景観・空間計画（26）
　景観（7）
　景観シミュレーション（3）

道路景観（3）
海岸景観（3）
港湾景観（3）
観光・余暇（4）
空間設計（3）
E：交通現象分析（55）
発生交通（3）
分布交通（3）
配分交通（3）
経路選択（6）
交通手段選択（8）
交通行動分析（4）
公共交通（10）
アクセス交通（4）
歩行者交通（8）
物流（6）
F：交通基盤計画（35）
地区交通計画（3）
道路計画（6）
鉄道計画（8）
空港計画（6）
港湾計画（6）
駐車場（6）
G：交通管理運用（30）
交通流（12）
交通情報（3）
交通安全（4）
交通弱者対策（8）
交通施策（3）
その他（26）
栃木（9）
開発途上国（7）
イングリッシュ・セッション（10）

充実した討議を期待して，1編あたり30分を確保する予定でしたが，応募件数が多く，1編あたり25分(発表12分，コメント5分，質疑8分）とせざるを得ませんでした．今後さらに講演数が増加することが予想され，十分な発表時間を確保するためには会場を増やすか日数を増やすかしなければなりません．次回の発表会では会場を増やして8会場とする予定です．しかし，会場数を増やすことは参加できない講演数が増加することや，会場確保の問題もあることから，日数を増やすことも選択肢の1つとして今後議論していく必要があると思います．

コメンテータの方には，発表会での討議を反映して審査付き論文への投稿されることを認識していただいていたせいか，事前に熱心に読まれ，懇切丁寧なコメントしていただきました．しかし，予定の5分をオーバーするケースも多く，また，質疑の時間もその多くをコメンテータからの質問に対する回答にとられ，一般参加者からの質疑の時間が非常に少なくなってしまうなど，問題点として指摘されています．コメンテータとして熱心に読めば読むほどコメントしたい点が多くなってしまいますが，時間の制約があるため論点を絞ってコメントしていただきたい．しかし，残ったコメントも論文をより発展させるために有用な意見がありますので，それらはメモとして発表者に渡していただければ，審査付き論文集の充実に役立つと思います．


発表会会場風景

講演用論文の投稿から3カ月以上経過していることから，その後の研究成果を加えた発表も多くありました．最新の成果を発表すること自体は大変良いことではありますが，コメンテータ及び司会者は事前に講演用論文を読んでおり，特にコメンテータはそれに従ってコメントを用意してきております．したがって，講演用論文と実際の発表が大きく異なる場合には事前にコメンテータと司会者に変更した論文を送るのが礼儀ではないかと思います．また，発表会の参加者に対しても変更論文を配布していただけると良いかと思います．

反対に，コメンテータから発表者に事前にコメント内容の連絡がないケースも多かったようです．特に学生会員などはコメンテータからどんな厳しい質問が来るかと不安で発表前夜は寝られないという人もおりますので，コメンテータは事前にコメント内容を発表者に連絡するようお頼いいたします．

(2) スペシャル・セッション

スペシャル・セッションは以下の5セッション開かれました．

- 駐車場案内システムの整備とその評価
- 観光系道路交通施設整備の新たな視点
- 交通施設の整備水準
- 交通ネットワークフローの動的分析
- 地下交通ネットワーク

これらのテーマは今日的で非常に興味深いテーマのため，複数のセッションに参加したいとの要望が従前よりありました．そこで，一般部門と並行して開催する案も委員会内で議論されましたが，今回は会場や時間の都合により１日目の夕方に一斉に開催することとなりました．この点につきましても次回以降の検討課題とさせていただきます．

（３） 特別講演及び招待論文

特別講演は栃木県文化財保護審議会会長・尾島利雄氏に「現代に生きる那須与一」と題してご講演いただきました．

招待論文は鳥取大学教授・小林潔司氏による「知識社会における交通行動：課題と展望」と名古屋大学助教授・森川高行氏による「個人選択モデルの再構築と新展開」の２編でした．小林氏は土木学会論文賞「交通情報を用いた経路誘導システムに関する研究（総合題目）」，森川氏は同論文奨励賞「意識データを利用した交通行動モデル（総合題目）」の研究成果を踏まえ，さらにこれらに関する研究の今後の方向性を分かり易く示していただきました．

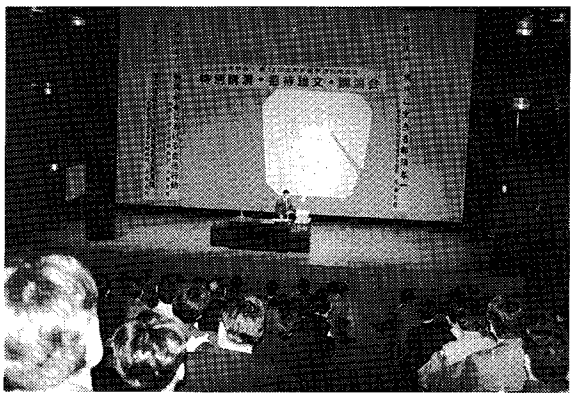
（４） 審査の状況

現在，「土木計画学研究・論文集 No. 12」の発行へ向けて，投稿論文の審査が行われている．この原稿が掲載される頃には既に最終判定も終わり，印刷の段階にあるが，ここで審査経過について簡単にご報告しておきます．

審査用論文の投稿は一般部門 119 編，スペシャル・セッション５編の計 124 編でした．編集小委員及び外部査読者の３名の査読報告を受け，編集小委員会で審議した結果，89 編を第１次判定合格としました．ただし，これらの中にはかなり厳しい意見のついたものもあり，これが最終的に登載される論文の数ではありません．修正期間が短いため，修正が間に合わない場合もあろうかと思いますが，その場合でも今回の査読結果を反映されて次回の発表会など他の機会に再度投稿されることを期待します．

審査用論文では，コメンテータからのコメントをはじめとする発表会における討議が反映されて講演論文から大きく発展した論文も多く，今回のような事後審査方式の利点が生かされたと考えております．

審査用論文の投稿に際しては，８部ものコピーを添付することになっていますが，これは短期間に査読・判定を行うため論文を編集委員長，副委員長，審査分野委員３名，外部査読者２名及び事務局に配布する作業の時間節約のためにお頼いするものです．それでも査読者の決定（コメンテータの決定もそうでしたが）には皆様の想像以上の時間を要しております．次回にはさらに，封筒に直接審査希望分野を記入してもらう，数編一緒に送付するときは１編づつ封筒に入れてもらうといったこともお頼いするつもりです．また，コピーした論文の方は著者名を伏せることにしております．発表会で講演した論文ですので，著者名を伏せることに疑問を感じられる方もいるかと思いますが，査読の公平性を保つために気分的な問題かもしれませんが伏せることにしております．



盛況だった特別講演会

４．おわりに

今回の発表会は改革後初めてのものであったが，従来にも増した講演数と活発な討議が行われ，審査付き論文への投稿数も大幅に増加し，今回の改革の目的はある程度達成できたものと考えております．しかし，その一方で新たなシステムや運営に対する不満も多々あることと思いますが，少なくとも数年間はこのようなシステムで行った後に今回の改革の評価はなされるべきと考えております．もちろん，運営上改善すべき点は早急に対処せねばならないため，ご意見・ご要望があれば土木計画学研究編集小委員会宛にお寄せ下さい．最後に，今回の発表会の開催準備・運営にご尽力いただいた皆様に感謝するとともに，今後さらに土木計画学研究発表会及び土木計画学研究・論文集が発展・活性化されることを期待します．

（1995.5.23 受付）